

2025年11月23日 南板橋教会 主日礼拝 降誕前第5主日 週報番号3491号

説教題：「**神の言葉が働いている**」

聖書箇所：テサロニケの信徒への手紙 I 2章13-20 (375頁)

説教者：秀島行雄牧師 招詞：讚美歌93-1-14 交読詩編：詩編119編105-112節 (137頁)

讚美歌：83/53 (神の御言葉は) /60 (どんなにちいさいことりでも) /127 (み恵みあふれる) /27

「今週の聖句」 「このようなわけで、わたしたちは絶えず神に感謝しています。なぜなら、わたしたちから神の言葉を聞いたとき、あなたがたは、それを人の言葉としてではなく、神の言葉として受け入れた…。…信じているあなたがたの中に現に働いているものです。」 (テサロニケ前書2：13)

「牧師室の窓」 「晩秋に 銀杏(いちょう)の大木 仁王立ち 黄金のトンネル 錦の絨毯」

「春植えし 秋に刈り取る 収穫は 数千年の 感謝の一日(いちじつ)」

(1)皆様おはようございます。11月が残り1週間となり晩秋の装いが深くなって参りました。小竹向原の駅からこの教会までの並木道には落ち葉が増えてきました。先週、私は横浜駅からバスに乗り、横浜キリスト教書店に立ち寄り、NHK横浜放送局に行きました。街路樹の銀杏(いちょう)の木が仁王立ちの様になり、黄色い葉が陽の光を浴びて、黄金(こがね)の様に輝いていました。秋深しの風景を堪能しました。

今月からは、テサロニケの信徒への手紙Iを読み始めています。テサロニケの信徒への手紙Iは読み方を短縮して、テサロニケ前書とも呼びます。テサロニケ前書は全部で5章に亘って記されています。今回はその3回目、第2章の後半を読み進めて参ります。前回も申し上げましたが、聖書の一番後ろに地図帳があります。テサロニケの場所を地図で確かめ、地名に親しみ、身近な場所になりましょう。テサロニケはパウロの第2回目の伝道旅行と第3回目の伝道旅行で滞在した町です。現在のギリシャ共和国では首都アテネに次いで人口の多い大都市、紀元前約3百年前に開拓された港町です。パウロたち一行によってキリスト教がユダヤのエルサレムから西へ西へと伝えられていきました。その経路は、陸路を1200km以上も歩いて伝道旅行をしてアジアの西の果てに至りました。パウロは夢に出てきた救いを求める人々の声に促されて船に乗り、地中海であるエーゲ海を渡ってマケドニア・ギリシャへとキリスト教は伝えられます。その様子は新約聖書の使徒言行録16章17章以下に書かれています。波乱万丈の伝道旅行であり、読み手の私たちがヨーロッパ伝道と言う歴史的瞬間への証人となるかのようです。

話は異なりますが、孫悟空・西遊記物語の元になっている「大唐西域記」、あの三蔵法師玄奘が天竺・インドに仏教の經典を求めて旅をするあの物語に私はドキドキ・ワクワク感を感じます。三蔵法師玄奘は16年の歳月を経て仏教をインドで学び經典を持ち帰り、以後、命ある限り經典の翻訳と仏教発展のために尽くしました。

…私には、三蔵法師玄奘とパウロとが重なり、その心意気に若い時も、今のこの年齢になっても、目に涙・涙、胸に熱く燃えて、生きる勇気が与えられてきます。

(2)扱って、本日の聖書箇所の13節の初めには「このようなわけで」と書かれています(原文のギリシア語では「καὶ διὰ τούτο(カイ/ディア/トゥート/そして/～の故に/この)」。この「このようなわけで」とは、何を指しているのでしょうか。きょうの聖書箇所の少し手前にある、9節の途中にある「…わたしたちは…夜の昼も働きながら、神の福音をあなたがたに宣べ伝えたのでした」加えて、12節の最後にある「神はあなたがたを招いておられます」と考えられます。であればこそ、13節の「わたしたちは絶えず神に感謝しています」と言う感謝の言葉が生まれてくるのです。「感謝」とは、相手が行なった行動に対しての深いお礼の気持ちです。分かり易い言葉で言えば「有

り難う」です。感謝とは心の交流を示しています。…私は母教会の牧師から「ありがとうございますを

一日に少なくとも100回言う機会・チャンスと見つけなさい、回数が足りない場合には鏡に向かって言いなさいと教えられました。それから50数年経ちました。電卓で計算すると2百万回になります。パウロが「絶えず神に感謝しています」というのはこのように具体的に数字に表わすことが出来ます。迷わずに実践することが大切です。旧約聖書の申命記6章に次の様に記されています。「あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。…わたしが命じるこれらの言葉を心に留め、…繰り返し教え、家に座しているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも、…語り聞かせなさい。更に、これをしるしとして自分の手に結び…額に付け…柱にも門にも書き記しなさい。…主は熱情の神である。」平たく言えば、頭で分かったふりをするな、やってみなはれと言うことです。分かったふりをして通り過ぎてはいけません。

(3) 13節のパウロの言葉は続きます。13節の2番目の文章を見てみましょう。〔…なぜなら、わたしたちから神の言葉を聞いたとき、あなたがたは、それを人の言葉としてではなく、神の言葉として受け入れたからです。…〕この文章、パウロの言っていることは実に理解に苦しみます。パウロたちが話す言葉を「人の言葉としてではなく、神の言葉として受け入れた」と言っているのです。まことに馬鹿げたものの言いようです。「人の言葉」つまり、人間が話す言葉が「神の言葉」になることはありません。そんなはずはありません。

併し、よく考えてみましょう。そんな筈(はず)があるのです。

…ここで一寸クイズ、頭の体操です。「そんなはずはない」の「はず」とは漢字で書くと「筈(竹冠に舌、口の中にある舌)」と書きます。弓矢、弓道で使う矢の後ろに付いている窪みの部分です。

「筈」とは、弓の弦を矢の筈に番(つが)えて弓を引き絞った力が小さな筈の部分に集中し推進力に変化させ、矢を飛ばす力となるのです。弓が上下に蓄えていた力が矢を水平に飛ばせる力へと瞬時に変化させるのです。小さな、小さな筈によって変化が起きるのです。大きな変化を起こすには小さな存在の働きがあるのです。

クイズはこのくらいにしまして、皆様は今までの人生の中で「神の言葉を聞いた」ことはございませんでしょうか。もしもないとすると、耳を澄ませて、「神の言葉として受け入れ」ては如何でしょうか。神秘的なオカルト現象を申しあげているのではなく、神との対話をお勧めしているのです。サムエル記上第3章に書かれている幼いサムエルが「主よ、お話し下さい。僕は聞いております。」が大切です。神の声を聞くことは受動的・受け身ですが、聞こうとする思い・意思があってこそ伝えられて、神の声として聞こえてくる、とサムエルはエリから教えられました。

(4) 続いて、13節の最後の文章を見てみましょう。「事実、それは神の言葉であり、また、信じているあなたがたの中に現に働いているものです。」物事には、「作用・反作用」があり、そのことを繋ぐ接続点があるのです。旧約聖書には神の言葉が数多く伝えられ、アブラハム・イサク・ヤコブの族長たちによって、また、イザヤ・エレミヤなどの預言者によって伝えられましたが、人々は神の言葉を聴くことは少なかったのです。パウロはイエス・キリストを介して神の言葉を聴くことが可能になると人々に伝えました。その接続点とは「祈り」であります。「信じているあなたがたの中に現に働いている」とは神の言葉を受け入れることによって、私たちの人生に変化が生じるのです。

教会の礼拝とは、「イエス・キリストの名によって、私たちが神の言葉を聞き、私たちの中に神の言葉が働いていることを神に感謝する時間であり、場所である」と言うことが出来ます。先程申し上げました様に、パウロはユダヤの場所を遠く離れてヨーロッパの見知らぬ場所で異邦人への伝

道を始めました。多くの困難の中にあっても、困難を克服し、未熟な信徒たちを力づけていました。その力の源は今日の聖書箇所はこの13節に示されています。「神の言葉が信じているあなたがたの中に現に働いている」この言葉ほど人を勇気づける言葉はありません。

パウロはテント造り職人と言う技術者です、問題が発生したら様々な工夫をして解決しようとした人物です。パウロは頭の中だけで物事を考えずに、実際に行動して、人々を勇気づけて、教会を応援していきました。問題が起きたならば、書いて整理し、補助線を引いて解決を図るので、きょうの聖書箇所14節～19節にはそのことが記されています。そして20節にはパウロの心からの喜びが書かれています。20節です。〔(2:20)実に、あなたがたこそ、わたしたちの誉れであり、喜びなのです。〕見知らぬ土地での懸命な伝道により、信仰の友が出来たのです。教会では血縁関係ではなくても、兄弟姉妹と呼んでいます、その理由はここにもあるのです。パウロが感じた「喜び」を私たちも受け取って喜びたいと思います。

(5)最後に、きょうの聖書箇所を離れて、2つのことを追加して申し上げます。

本日、11月の第4日曜日は日本基督教団の行事録では「収穫感謝日」であり、「謝恩日」になっています。「謝恩日」について一言申し上げますと、隠退牧師と牧師の遺族を支えることを覚える日と定めています。南板橋教会では教会会計から教団の年金局に献金しています。私自身は年金局を支える立場に身を置いてきました。年金局の理事会に参加する一員でありました。職業人として知り得た資金運用知識や年金のノウハウで年金局を応援してきました。皆様にも隠退牧師やご遺族の生活の支援のための活動を覚えて下さいますように願っています。

2つ目のことは、本日は11月23日です。いまから62年前、1963年のこの日アメリカ時間では11月22日(金曜日)に日本とアメリカのテレビが宇宙中継で初めて繋がった記念すべき日でした。私の家では、家計には負担でしたが、父母の決断でついにテレビを買うことが出来て喜んでいました。併し、日米TV宇宙中継初日のこの記念すべき日に放送された第一声・トップニュースはアメリカ大統領ケネディーの暗殺事件でした。私は今でもその時のテレビニュースを鮮明に覚えています。ケネディーは若い時に日米戦争での南太平洋ガダルカナル戦闘で魚雷艇の艦長をしており、日本海軍の駆逐艦によって沈められました。十数名と共に海上を泳ぎある小さな、小さな島に泳ぎ着いて命を繋ぎました。私は6年前に厚生労働省の職員と共に遺族代表の一人としてソロモン諸島での慰霊活動をしました。ガダルカナル島の血染めの丘やジャングルの中、浜辺、海上・海中での膨大な戦死者の慰霊を弔いました。私の叔父は海軍で18歳、南太平洋海戦で戦死しました。私は、ケネディーが泳ぎ着いた小さな島の浜辺にも偶然にして上陸して慰霊の時を持ちました。ケネディーは戦後にアメリカの上院議員となり大統領になりました。彼は戦争を憎みましたが、「昨日の敵は今日の友」としての人生を歩みました。「昨日の敵は今日の友」です。

今月11月11日放送のTV番組でケネディー大統領からの手紙と写真が本物であるか否かの真偽鑑定が放送されました。本物と鑑定されて、多額の金額が値付けされました。彼が乗って戦っていた魚雷艇を沈めた駆逐艦の艦長を探し出して、交流を深める手紙でした。まさに、「昨日の敵は今日の友」です。

いま各国の政治や社会は、互いに敵を作ることに熱心であり、血道(ちみち)をあげています。

日本のキリスト教は、キリストの教会はそうであってはならないと声を上げる時であります。

「神の言葉を聞き」、「神の言葉を受け入れ」、「神の言葉が働いている」その様な人間の社会であるように、私たちがその様に生きるために、祈りましょう。

・・・お祈りします。

イエス・キリストの主なる神様。私たちはあなたの御恵みによって生かされていることに感謝いたします。人生の辛い日々にも、安らかな時にもあなたに向かって祈ることが出来ます様にお支え下さい。神が創造されましたこの地球上に生きる一人一人に平安・平和・希望が与えられますように。食べ物が乏しい人々に、災害や戦争の只中にある一人一人に慰めがありますように、お守りください。私たちに知恵と勇気をお与え下さい。

教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している一人ひとりに、主なる神の御恵みと平安がありますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。      アーメン